



4 支え合いのチカラ

交流支援

「なんだか寂しくなってきたね」
住民さんの一言から始まった、
この日は誰かがいる「かようび」
(通う日)



会い、三さんサロン

(倉敷市社会福祉協議会
復興支援コーディネーター
通称 FC)



FCは被災地でのつながりづくり
居場所づくりを行っています
(FCの漆原と田淵)

『会い、三さんサロン』
つながる3つの「さん」

- ① 誰でも「さん」か(参加)OK
- ② 気軽に相談して不安・悩みを
はっ「さん」(発散)
- ③ 「さん」さんごご(三々五々)自由な
時間に来て、帰ってOK

仮設団地で

「会い、三さん」

3つの「さん」で
つながりましょう！

「三密」避けながら、「三さん」の居場所を
定期的開催します。「寂しい」「相談したい」
「情報がほしい」等 皆さんのお越しをお待ちしています！

<p>毎月第2・第4 金曜日 13:30~</p> <p>真備総仮設</p>	<p>毎月第2・第4 水曜日 13:30~</p> <p>市場仮設</p>
<p>毎月第1・第3 水曜日 13:30~</p> <p>三万仮設</p>	<p>毎月第1・第4 水曜日 13:30~</p> <p>みその仮設</p>
<p>毎月第2・第4 水曜日 13:30~</p> <p>岡田仮設</p>	<p>毎月第1・第3 金曜日 13:30~</p> <p>柳井原仮設</p>



▲みその仮設での「会い、三さんサロン」
真備支え合いセンターも参加。何気ない会話の中から気づき
やニーズがわかる。

自宅の再建が進む。喜ばしいことなのに一抹の寂しさも。
気持ちに寄り添い続ける活動と地域でのつながりやコミュニティの
再構築など、この章では被災地に生まれ、継続している活動を
紹介します。

「仮設に来るボランティアの人たちも減って、ここ
におった人らも、地元やそれぞれのところに戻るん
で、段々に減って。再建が進んだら証拠なんじゃけ
どなんか寂しゅうなってきたわ」住民さんがポツリ。
そんな住民さんの「つぶやき」から『会い、三さん
サロン』は始まりました。
誰が来ても来なくてもその日、そこには人がいて、
3つの「さん」でつながります。仮設から引っ越した
方も、ずっと地域で頑張っている方も、いつでも気軽
にのぞきに来ることが出来る場所を目指しています。

『会い、三さんサロン』

- 開催日時：月2回 13:30~15:30ごろまで
- 開催場所：真備総集会所・真備総談話室・
市場仮設集会所・みその仮設談話室・
岡田仮設談話室・三万仮設談話室・
柳井原仮設集会所
- 令和3年1月現在 全91回開催



▲オンラインサロン開催のきっかけになった「つながる回覧」

コロナ禍での つながりの工夫 オンラインサロン



▲「ふらっと真備」中央大学の学生ボランティアの皆さんから届いた手紙



岡田仮設では、**日本赤十字社岡山県支部のボランティア**さんがオンラインサロン。(写真上)
体操もオンラインでできます！（写真下）



FCのつばやき

日赤のボランティアの方々は、避難所支援から継続して、支援を続けています。コロナ禍ではオンラインを活用し、おしゃべりや健康づくりができる体制も作ってくれました。また、岡田仮設団地では子どもも気軽に利用したり、サロン以外でも気になる方を見守るために談話室を開けたりと、住民同士の優しいコミュニケーションが、自然な支え合いにつながっています。



▲真備総仮設で「ふらっと真備」の学生さんとオンラインサロン

市場仮設と真備総仮設に関わっていた中央大学の学生ボランティアグループ「ふらっと真備」の皆さんからそれぞれに手紙が届きました。

真備総仮設団地では、コロナ禍で、集ったり外へ出たりすることや、会う機会も減った住民同士の近況報告も兼ね、当時の仮設連絡員さんが回覧板にして回しました。

回し終えたものを、ボランティアの方へお礼がてら送ったところから「直接会えなくても何かつながり合いたい」という気持ちがお互いに高い、オンラインサロンの開催へとつながりました。

**とても居心地のいい空間
真備総談話室**

いつでも開かれている。マスクを作ったり、手芸をしたり、テレビを見たり。わいわい、おしゃべりに花を咲かせる女性陣、冷やかしのぞく男性陣。障がいがあっても、認知症でも、やんわりと優しい気づかいで誰でも寄れる場所でした。

FCは見た！



学生パワー ノートルダム清心女子大学 人間生活学科 濱崎ゼミの学生さん



▲おしゃべりをしながらのリース作り。
「こりゃあええな」男性も参加しています。

地元の学生も大活躍。
「私たちでもいいのかな？」から「私たちがだからこそできる」へ。
参加されている方々は、一緒に時間を過ごすことで、気持ちが若返ると好評です。
長い関わりがお互いの関係性を築いています。

仮設団地で「会い、三さん」サロン

3つでさんまで
「誰でも参加OK!」
お気軽に相談して不安・悩みを解消
※5ヶ月毎の開催に継続してご参加!

「三さん」だけなら、「三さん」の居場所を定期的に開催します。
「楽しい」「相談したい」「情報を知りたい」
皆さんのお越しをお待ちしています!

真備総仮設団地 集会所
日時：1月12日(火)
14:00~15:30

ノートルダム清心女子大学の
学生と一緒に、簡単な体験
をして、**書き初め**、**送迎**などを
楽しんで始めたいと思っ
て、**楽しい**体験をしたいと思っ
た方?

【参加費】 仮設団地生活支援協議会真備事務所
仮設団地運営センター(ノートルダム) 担当
〒710-1301 倉敷市真備駅前1161-1 0868-698-44

県外からも息の長い支援 兵庫県立豊岡総合高等学校 インターアクトクラブ



▲地域で行われたオンライン研修会でもスマホの操作を「教える」スタッフとして大活躍。

「こんにちは」
「待ってましたよ」
笑顔いっぱい時間です。

インターアクトクラブの高校生は
遠く豊岡市からやってきます。
大人がワークショップを楽しんで
いる間に高校生は
顔見知りになった
子ども達と個別訪
問へ。



▲細かい作業もお手の物の豊岡総合高校生たち。
ランドセルのキーホルダーづくりのワークショップ。

「こんにちは」
子どもの屈託のな
い声に、部屋の中
にいた住民さんも
思わず笑みが。
普段は見守られ
ることが多い子ど
も達も高校生を従
えて、立派な支援
者の一員でした。

真備自慢

真備町有井に「おひさま広場※」という真備を支援するグリーンコープさんとNPO法人災害支援団Gorillaさんが作ったコミュニティスペースがあります。ここで毎月1回第4土曜日に開催されているのが「おひさまマルシェ」です。



マルシェを上手に利用している真備町内のサロンもあります。通いの場で作ったものや畑で採れたものを売り、サロンの活動費&個人の生きがいがつくりにつなげています。



- ※『おひさま広場』
地域住民同士の「助けあい・支えあい」による地域でのコミュニティづくりが目的
- コミュニティスペース：330円/3時間
 - 調理スペース：110円/1時間
 - 冷暖房：110円/1時間

仮設住宅での 買い物支援

FCは見た!



真備総・市場仮設団地では「シルバーセンター後楽さん」、柳井原仮設団地では「グリーンビレッジ瀬戸内さん」が施設の地域貢献で買い物支援のために車を走らせてくださっていました。仮設団地だけでなく、これからも地域の方と一緒に買い物支援のしくみづくりを考えていきたいFCなのでした。



思い出の写真に向き合う 岡山スクラップブッククラブ



▲二万仮設でスクラップブック。
この日はおかやまコープの方もボランティアで参加。



▲柳井原仮設でスクラップブック



支援者の方々はもちろん、地元住民の方々からも「いつでも声をかけてね」「都合がよかったら行くよ」と声がかかります。建設型仮設の集会所・談話室が、被災の有無に関わらず、誰でも気軽に来て活躍できる場・社会参加の場になるといいな…。

途切れず関わり 続けてくれる安心感 日本ヨーガ協会



フレイル予防 体操&健康管理 健康づくり教室



▲真備総仮設集会所でのヨーガの後の茶話会
真備総仮設では2年以上、ほぼ毎週金曜日ヨーガの時間。おなじみさんの顔がそろいます。



▲市場仮設でヨーガ



▲みその仮設でヨーガ

仮設団地で支援活動を 続けている団体



★CAPPO
おしゃべりサロン
みその仮設団地
談話室にて



★おかやま
コープ
「サロン・
訪問活動」



★災害ボランティア
加西らかん
「刃物砥ぎ」



★おたがいさまプロジェクト
「さんさんリフレッシュサロン」

★こころステーション&裏千家
淡交会青年部東中国ブロック
「いっぶくかふえ」



★シルバーセンター
後楽「楽笑会」
真備総仮設団地
集会所にて



★中国臨床宗教師会
「カフェ・デ・モンク」
お坊さんのいる傾聴の喫茶



★グリーンコープ生活協同組合
おかやま

ここからの活動紹介は平成30年度に日本生活協同組合連合会よりいただいた被災地支援金を活用して実施した、地域の交流の場・新たな仕組みづくりの活動です。



まび発！新しい地域づくりを考えるフォーラム

学ぶ



「大きな災害を経験し、地域のつながりの大切さを再認識した真備町だからこそ、新しい地域づくりを意識して今からみんなで動き始めよう」
 そんな思いを込めて、東日本大震災の被災地から講師をお招きし、被災後の地域住民と行政と地域の事業所の連携のあり方について、発表とパネルディスカッションを行いました。

- 開催日：令和元年7月12日(金) 15:00～16:30
- 会場：真備公民館 箭田分館 集会室
- 参加者：60名
- 内容：地域づくり実践発表、パネルディスカッション
- 主催：小規模多機能ホームびどうの家真備

▲真備町で新しい地域づくりを目指すため、住民も事業所もみんなで協働することを確認するフォーラムとなりました。



楽しく寄合所

集う
癒す



豪雨災害によって被災し、みなし仮設住宅での生活を余儀なくされている方々に、誰かと一緒にあたたかいご飯を食べながら交流と情報交換ができる場所を提供したい。
 居酒屋「楽らく」の店舗を活用した、こども食堂「楽らく寄合所」はそんな思いから開設され、食事やおしゃべりを通して孤立しがちな時期に被災者と地元住民のつながりと元気を与えました。

- 開催日：全21回開催（毎月第3日曜日）
- 会場：いざかや楽らく
- 参加者：のべ約550名
- 内容：こども食堂、情報交換、相談支援等
- 主催：楽らく寄合所



▲こども食堂の活動を終了後も、失業した被災者と共に就労継続支援B型「ひかり工房」を立ち上げ、障がいのある人の活躍と地域交流の場所となっています。





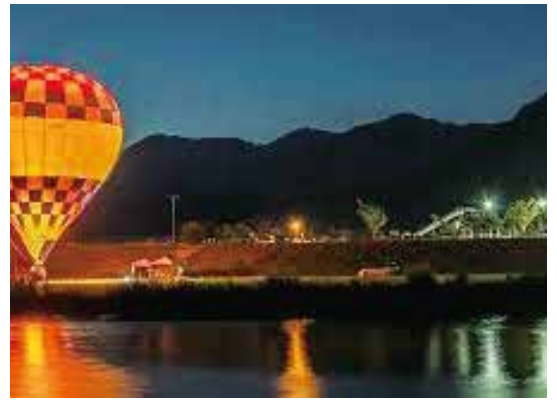
くれせ宵まつり

集う



災害により、地域で行われていたイベントが中止となるなか、復興に向けて何より大切な地域の人と心のつながりを取り戻すことを目的として「くれせ宵まつり」が企画されました。

子どもも大人も楽しめ、地域のみんなが参加出来るように、準備や計画の段階から、地域の様々な団体や企業、被災地支援団体にも参加と協力を要請することで、みんなつながり、みんな「呉妹を元気なまちにしていこう」という意識が高まりました。



- 開催日：令和元年8月4日(日) 17:00~20:30
- 会場：まきびさくら公園
- 内容：気球の夜間係留フライト
竹あかり点燈・芥川高校和太鼓演奏
呉妹小学校生徒によるソーラン節
白壁町家ライブ、屋台・出店等
- 主催：くれせ宵祭り実行委員会



夏休み宿題大作戦!!

学ぶ
遊ぶ



夏休みを活用して子ども達も子どもらしく、「思いっきり遊び」「勉強もして」「思い出をたくさんつくること」を目的に「ぶどうの家BRANCH」を会場として全7日間開催しました。子どもたちの遊び相手であり、宿題を教えるのは、学生ボランティアと地域のおじちゃんとおばちゃんたち。子どもを中心とした支援が地域みんなをつなぐ活動に広がりました。



- 開催日：令和元年7月14日(日)・7月15日(月・祝)・7月21日(日)・8月5日(月)・8月7日(水)・8月21日(水)・8月25日(日)
- 会場：ぶどうの家BRANCH
- 参加者：のべ155名
- 内容：宿題、レクリエーション、食事づくり等
- 主催：NPO法人ぶどうの家わたぼうし

▲頼れる地域のシニアさんたちも子ども達の学びと遊びを優しくサポートしてくれた。



集う 学ぶ

呉妹を元気にする会



◀スマホ教室や災害のお知らせアプリの使い方等様々な講座も開催

オール呉妹（大人も子どもも被災の有無にかかわらず）の笑顔のために呉妹地区で若手を中心に立ち上がった地域の居場所です。自分の好きな時間で自由に出入りできるスタイルで参加者同士が交流しています。また、交流だけでなく、参加者からの要望でスマホ教室を行ったたり、防災について意見交換したりもしています。
呉妹地区の介護事業所や小学校と連携しながら交流を広げ、現在は復旧後の呉妹分館で地域に元気を発信中です。

- 開催日：令和元年4月～ 毎月第4火曜日 11:00～15:00
- 会場：デイサービスセンター米寿・呉妹小学校体育館・呉妹分館
- 参加者：毎回10名程度
- 内容：おしゃべり・食事会・勉強会・創作活動等、パネルディスカッション
- 主催：呉妹を元気にする会

集う

まびフェス



発災から1年の節目の時期に、住民が音楽や食事を通じた交流を楽しんでもらうことで、住宅再建や地域復興の元気を分け合えることを目的とした「まびフェス」が開催されました。
各種防災のまちづくりに向けた体験や協賛企業による足袋の製造実演体験や学校給食の提供など様々なイベントを通して、たくさんの方々の再会の場となりました。



- 開催日：令和元年6月30日(日) 11:00～
- 会場：菟小学校
- 内容：音楽イベント・学校給食の提供・ワークショップ、防災カフェ、自衛隊車輛の展示説明会
- 主催：まびフェス実行委員会



竹&ふれあいフェスタ2019（ふれあい夏祭り）

集う



これまでも毎年開催してきた、箭田地区の大きなイベントでしたが、令和元年度の竹&ふれあいフェスタは運営者、出展者、出演者、来場者の多くが被災者という状況になりました。それぞれが現在住む場所もバラバラではありましたが、長年続いてきた学区のイベントは地域のつながりや住民同士が元気を高めあう大きな役割を果たしました。参加者からは「まちが元気になっているのを体感できて、うれしかった」などの声が寄せられました。

※写真は「倉敷とことこ」より転載しています。



▲現代の吉備真備公を選ぶ選考会も行いました。

- 開催日：令和元年8月24日(土) 15:30～18:30
- 会場：吉備真備駅前広場(ロータリー)・真備支所
- 参加者：約3000人が参加
- 内容：そーめん流し・ステージイベント・模擬店・ポスター展・福引等
- 主催：夏祭り実行委員会



まびの集い in 老松

招く



◀老松学区の皆さんと一緒に食事を楽しんだり、地区の交流の場の情報提供を行いました。

老松学区のアパートにも、真備から多くの被災者がみなし仮設住宅で生活を送っていることを知った地元コミュニティ協議会が「少しでも今いる生活の場で真備の人同士がつながり、さらに老松の住民と交流してほしい」という思いから、「まびの集い」を開催しました。

老松中洲高齢者支援センター等の支援機関とも連携をはかることにより、イベントの開催情報を届け、真備と老松をつなぐ場となりました。

- 開催日：令和元年6月26日(水)・10月8日(火)・令和2年1月28日(火) 11:00～13:00
- 会場：老松小学校・老松学区ふれあい会館
- 参加者：第1回(11名)・第2回(12名)・第3回(7名)
- 内容：昼食・交流会等
- 主催：老松学区コミュニティ協議会



集う響

大間ジロー岡山復興応援トークライブ



▲cafe陶では、「笑いヨガ」を毎月第2・4木曜日10:30~11:30に、「4DSヨガ」を毎月第3日曜日に行っています。その他にも各種イベントを行っています。近くに倉敷市民貸農園もあります。



玉島地区で被災者と交流の場づくりを行っているcafe陶では「オフコース」のドラマーとして活躍された大間ジロー氏を迎えて、岡山復興応援トークライブが実現しました。以前からオフコースの大ファンだったという参加者は、憧れの大間さんと会話したり、ドラムを叩かせてもらったりと、忘れられない時間となったようです。

- 開催日：令和元年8月12日(月)
13:30~15:00・18:30~20:00
- 会場：cafe陶
- 参加者：60名
- 内容：トークライブの開催
- 主催：cafe陶

招く

ほっと笑待会



▲被災者も支援者もみんなと一緒に集い、しゃべり、食事を楽しむ空間となっています。



住み慣れた自宅や地域を離れて暮らす被災者の方々が、環境の変化によって気持ちが落ち込んでしまわないように、人や地域とつながって笑い合える地域の居場所が「ほっと笑待会」です。心の健康づくりをサポートする心ほっとサポーターを中心に、保健師や高齢者支援センター、さらに被災地支援団体や地域の介護保険事業所等も加わって、地域みんなで支え合い、楽しい時間を過ごせる場となっています。

- 開催日：平成31年3月11日(月)・令和元年5月13日(月)・
7月15日(月)・9月23日(月)・11月18日(月)・
令和2年1月20日(月)
(10:00~13:00)
- 会場：玉島公民館 長尾分館
- 参加者：のべ479名
- 内容：食事会・創作活動・情報提供・世代間交流等
- 主催：ほっと笑待会



まちいろフェスタ

集う



▲復興アーティストの imiml は、発災当初から真備町でボランティア活動を続けながら、歌声で元気を届けてくれました。

「少しずつでもいいので、災害前の一人ひとりの暮らしの色やまちの色を取り戻そう」という目的で開催されたまちいろフェスタ。
当日は、真備かなりや保育園の園児や保護者も参加して様々な防災の体験ができる防災カフェや復興アーティスト imiml によるライブを行いました。
災害救助犬ふれあいコーナーや会場の清願寺の綺麗なお庭を眺めながらのカフェコーナーなどを通して以前のつながりの再構築とこれからの復興を意識する機会となりました。



▲煙体験ハウスで防災の勉強もできました。

- 開催日：令和元年11月13日(水) 12:20～16:00
- 会場：清願寺
- 参加者：190名
- 内容：住職による法話・音楽ライブ
防災カフェ・災害救助犬ふれあいコーナー
- 主催：マチノイロ実行委員会



夏色

訪ねる



▲参加者とおしゃべりしながら、画家のボランティアさんが似顔絵をプレゼントしてくれました。



▲夏色の活動は、学生ボランティアも加わって、みんなで歌っておどって、いつも笑いに包まれます。

建設型仮設団地への入居が始まったところから、様々な支援団体やボランティアグループが建設型仮設団地での交流の場を支援してくれました。柳井原仮設団地や二万仮設団地を中心に活動を継続した「夏色」もその一つです。支援物資の提供や季節に応じたイベントの開催、笑いヨガなど、

学生ボランティア(金光学園木綿崎ボランティア部)も参加して住民の日々の交流の入り口づくりに尽力されています。

- 開催日：令和元年 8月24日(土) 11:00～12:00
12月21日(土) 10:00～14:00
- 会場：柳井原仮設団地・二万仮設団地・二万分館
- 内容：交流サロン・クリスマスミニフェスティバル
- 主催：夏色



がんばっているよ！川辺復興祭

集う



▲久しぶりの再会。ここから新しい地域交流がスタートします。

川辺地区の小学校や幼稚園、分館が復旧し「地域の子ども達と一緒にこれからの地域を皆で盛り上げていこう」という意識を高める場として川辺復興祭を企画しました。
残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響により、大人数が集まる復興祭は延期となりましたが、地域の宝物である子ども達に「おかえり」の意味を込めて、お菓子や記念品を贈りました。子ども達の元気な声や姿が川辺学区をさらに元気にしてくれそうです。



- 開催日：令和2年1月～3月にかけて
- 会場：川辺小学校・川辺幼稚園
- 内容：川辺地区の園児・児童おかえり歓迎会
- 主催：がんばっているよ！川辺復興祭



服部にこここサロン

集う



服部地区でも、「これまで一緒に地域で生活してきた人たちが、以前のように交流できる場が必要」という思いから、被災後わずか2か月後には、地域の工場跡地や自宅を活用した交流の場「服部地区集いの会」が開催されました。
真備公民館服部分館の改修工事も終わり、新たに「服部にこここサロン」として、様々な機関の協力や参画のもと、地域のみんなが笑い、学び、見守り合える拠点として活動を継続中です。



- 開催日：令和元年10月14日(月)より毎月第2・4月曜日に開催 10:00～15:00
- 会場：真備公民館 服部分館
- 参加者：毎回約25名
- 内容：おしゃべり・食事会・手芸・レクリエーション・勉強会等
- 主催：服部にこここサロン



有井女子会

集う



▲女子たちの笑顔と楽しいおしゃべりが会場いっぱいに広がっています。

未政川の決壊箇所のすぐ近くにある地域の拠点、下有井公民館は奇跡的にわずかな補修で建物をこれまでどおり活用することができました。被災当初は災害ボランティアアセンターの地区拠点として、そして、その後は、地域住民が気軽に集い、戻ってくることでできる場所としてこの公民館はとても大きな存在となっています。

被災から4か月後からスタートした有井女子会も、懐かしい人と会える場所、地域のぬくもりを感じる場所として、有井地区の皆さんの帰りと参加を優しく待ち続けています。



- 開催日：毎月第3木曜日 13:30～15:00
- 会場：下有井公民館
- 参加者：有井地区の女子約30名
- 内容：おしゃべり・食事・手芸・勉強会等
- 主催：有井女子会

学ぶ
集う

まびマルシェ in 箭田分館



「子どもから大人まで多世代が集い、真備町がさらに良いまちに生まれ変わるよう、多世代が集い、学べる場をゆるくつくりたい」との思いから医療・介護の専門職チームが実行委員会を立ち上げて、実施したイベントです。

基調講演講師の内藤いづみ先生は、在宅ホスピスの経験を通して地域で生き続ける意味と魅力についてメッセージを伝えてくださいました。

住み慣れた地域でできるだけ自分らしく暮らし続けること、そのための復興をみんなと一緒にとりくむ気運が高まりました。



▲内藤先生のお話にみんなが引き込まれ、みんなが住み慣れた地域の大切さを再確認しました。

- 開催日：令和元年11月3日(日) 11:00～15:30
- 会場：真備公民館 箭田分館
- 内容：基調講演・模擬店・ステージ発表
- 主催：内藤いづみ先生を真備に迎える会実行委員会



真備の集い in 水島

集う



▲水島地区の愛育委員の皆さんが日ごろ練習しているフラダンスを披露してくれました。

今の生活の場である水島地区で、出会いや情報交換をしながら、少しでも元氣を取り戻してほしい。そんな思いから、水島地区愛育委員会主催の「真備の集い in 水島」が開催されました。

愛育委員ならではの発想で、参加者の健康チェックや健康相談に応じ、美味しい食事を食べていただきながら、脳トレやフラダンスなども披露しました。クリスマスの時期の開催となり、参加者一人ひとりにとって心あたたまるクリスマスプレゼントとなったイベントでした。



- 開催日：令和元年12月6日(金)
- 会場：水島支所 5階大会議室
- 内容：健康測定・健康相談・食事・交流会
- 主催：水島地区愛育委員会



呉妹富士

集う

「呉妹地区がこれから元氣を取り戻していくためにはまず私たちが元氣でないと！」

改修工事が終わって新しくなった呉妹分館に集まったメンバーはみんなで話し合いながら、毎週1回は顔をあわせて、会話を楽しみ、体を動かす通いの場を立ち上げました。会の名前は呉妹地区を見守る山の愛称と同じ「呉妹富士」。時にはみんなで食事を楽しみ、季節のイベントも大切にするまさに元氣を発信する通いの場です。



▲みんなで一緒に体操をするから継続できるし、一体感が生まれます。

- 開催日：毎週火曜日 9:00～11:00
- 会場：真備公民館 呉妹分館
- 参加者：毎回約20名
- 内容：体操・レクリエーション等
- 主催：呉妹富士



▲コロナ禍で体操後の茶話会は中止。再開が待ち望まれます。



富田高齢者のつどい

招く



▲富田と真備のつながりがさらに深まるイベントになりました。

これまでは、学区の高齢者を対象に開催していた「高齢者のつどい」でしたが、せっかくみんなが交流し、楽しめるイベントなら、真備の皆さんもぜひ、招待して、少しでも元気を持って帰ってほしい。

そんな思いから、当日は送迎バスを用意して、真備町の方をお迎えし、楽しいひと時をみんなで一緒に過ごすことができました。この「ご招待」は前年度も行われており、2年続けて参加された方は「前の年にとっても楽しく笑顔になったので今年も楽しみにして来ました」と話されていました。

- 開催日：令和元年12月8日(日) 10:30～14:30
- 会場：富田小学校体育館
- 参加者：約250名
- 内容：落語・笑いヨガ・和太鼓・神楽・健康測定・健康体操等
- 主催：富田愛育委員会・富田地区社会福祉協議会



まびまあるの会

集う

住み慣れた真備町を離れて暮らす、みなし仮設住宅在住者を主な対象に、これまでも継続して定期的なサロン活動を実施してきたまびまあるの会。被災者の声は、「なかなか情報が届かない」「自分だけがポツンと生活をしているように感じる」などの不安や悩みが多く、その気持ちを少しでも交流によって軽減できるような様々な工夫をしながら復興に向けた活動を続けています。

12月には音楽と食事を楽しんでもらえるよう、クリスマス会も開催されました。



- 開催日：月1回不定期開催 13:30～16:00
- 会場：くらしき健康福祉プラザ・川辺分館等
- 内容：おしゃべり・食事・レクリエーション等
- 主催：まびまあるの会





復興イベント三世代ふれあい広場

集う



▲校庭中庭ではゲストの皆さんが元気な踊りを披露してくれました。



▲地域の様々な団体が、模擬店やゲームなどを分担しチームワークの良さがうかがえました。

「住民同士が集まり、顔をあわせて語り合うことが新しいコミュニティづくりの第一歩であり、その場を学区をあげてみんなで作ろう」という目的で開催された「三世代ふれあい広場」。

令和元年度は8月と11月の二回開催し、いずれもたくさんの方が参加し、活気にあふれたイベントとなりました。発災以来、初めて顔をあわせ再会を喜ぶ姿、元気に走り回る子ども達の姿、響く笑い声にこれからの菌の未来が見えてきました。

■開催日：令和元年 8月18日(日) 16:00～19:00
 11月17日(日) 10:00～13:00
 ■会場：菌小学校
 ■内容：模擬店・ステージ発表・作品展示等
 ■主催：菌地区まちづくり推進協議会



たけのこ

動く



■開催日：毎週金曜日 午後から
 ■会場：真備公民館 岡田分館
 ■参加者：毎回約20名
 ■内容：おしゃべり・体操等
 ■主催：岡田体操教室「たけのこ」

災害前から地域で行ってきた健康づくりを目的としたサロン活動をしましたが、集まる拠点やサロンで使用してきた備品も使えなくなっていました。地域からは再開を望む声も多くあり、岡田分館の改修を終えたタイミングで「たけのこ」の活動も再開しました。体操は主に「百歳体操」を取り入れています。みんなで一緒に体を鍛え、その後みんなでおしゃべりをするのも大切な時間となっています。

下有井町内会 研修会・交流会

話し
合う



災害に負けないつながりと災害によい防災の仕組みづくりを住民みんなで考え、実現することを目的に、これからの自主防災組織や町内会の活動について学び、話し合うイベントを開催しました。地域の避難場所や町内会連絡網等についても意見が交わされ、今後の地域活動の広がりが期待されます。

- 開催日：令和2年3月22日(日)
10:00～13:00
- 会場：下有井公民館
- 参加者：31名
- 内容：研修会～各自で作成する防災行動計画～・
自主防災組織について・交流会
- 主催：下有井町内会

下有井ふれあい会

集う



「下有井の地域みんなが一緒に交流できる場をつくりたい」との声から始まった「下有井ふれあい会」。
会を実施するために実行委員会が立ち上げられ新しい担い手や協力者も多く仲間に加わってくれました。
当日は交流を心待ちにした住民がたくさん来場され、公民館も末政川の河川敷にもたくさん人の輪ができていました。

- 開催日：令和元年度3回開催
- 会場：下有井公民館
- 内容：おしゃべり・健康チェック・食事
- 主催：下有井ふれあい会実行委員会

創ろう！防災ネットワーク

学ぶ



それぞれの地域で災害を経験した芥川高校(大阪北部地震)、矢掛高校(西日本豪雨)、伊具高校(台風19号災害)の学生たちが、その体験から「自分たちも復興を支援する側にまわりたい」という気持ちから防災ネットワークの構築を目的とした交流会を開催しました。若く、元気な支え合いの芽が県を超えた大きなたつながりや支援ネットワークに広がっていくことが今後期待されます。

- 開催日：令和2年2月11日(火・祝)
- 会場：矢掛町町家交流館
- 参加者：19名
- 内容：高校生による災害の体験・活動報告、意見交換会
- 主催：創ろう！防災ネットワーク実行委員会

集う

宮田団地の住民の集い



『宮田団地集会所 お披露目会』

- 開催日：令和2年12月20日(日)
11:00～
- 会 場：宮田団地集会所
- 参加者：33名

◀集会所完成お披露目会。みなし仮設から戻った住民さんが一言。「ドアを開けたら知った顔にあえるのが嬉しい」

被災する前は、いつもの集会所でいつもの顔ぶれが集まるのが日常でした。突然の災害で、自宅や近所さんと離れて生活をするなかで、「みんなと会いたい」「ゆっくりとこれからのことを話したい」という声があがり、住民同窓会が企画されるようになりました。

新しい地域をみんなでもう一度作りあげていくためには顔を合わせる機会も大切ですし、災害に強い仕組みや意識を築いていく必要もあります。

コミュニケーション再編のため、宮田団地の新しい地域づくりは、大きな一歩を踏み出しています。

『町内会再結成 についての会議』

- 開催日：令和2年7月26日(日)
13:00～
- 会 場：真備保健福祉会館3階
- 参加者：35名

町内会再結成にむけた住民会議。▶満場一致で再結成決定。



学ぶ

絆を深める会



▲町内を超えた「ご近所さん」交流会。「久しぶり」「これからまたよろしくね」



▲「再会の集い」久しぶりに町内の皆が顔を合わせました。



▲防災に関する勉強会の様子

原田団地の自治会によってはじめられた地域の交流の場・学びの場です。災害に強く、住民に優しい団地をみんなで作りあげるため、避難訓練や防災に関する勉強会、要支援者のための介護教室や、地域の美化活動・サロン活動等に取り組んでいます。

11月に開催した交流会では、原田団地だけでなく集いの場を持たない近所の町内にも声かけをして、絆をいっそう深めることができました。



真備町写真洗浄@あらいぐま岡山

磨く

まちの大部分が水に飲み込まれた真備町では、家屋だけでなく大切な思い出もまた、水や泥に浸かって被災してしまいました。『思い出』を取り戻し、『これから』を目指すお手伝いをしたい。そんな思いから始まった、写真洗浄の活動は多くの方の共感と参加を得ながら、2年を越え、写真洗浄が新しい地域住民の活躍の場や、出会いの場にもなっています。

「まだまだ、新規の依頼もあるなかで、最後の1件まで取りこぼしが無いように写真と被災者の心を救いたい」

磨かれていく写真と地域の関係に、これからの真備が見えてきます。



▲1枚1枚丁寧に、心を寄せながら写真洗浄の作業は続きます。

これまでの活動実績

- 写真の預かり件数：534件
 - 処置後の返却件数：459件
 - 処置枚数：約30万枚
 - 活動日数：272日
 - 活動参加人数：8603名
- ※令和3年1月17日現在



いのりんジャパン

祈る



▲真備町のシンボルを守るための竹林保全活動の様子。



◀まだまだ使える家電を集めて、被災地へ届ける。家電収集プロジェクト。

◀建設型仮設団地の「よしず」の取り付けや撤去作業もお手伝いします。

いのりんジャパンは平成30年7月豪雨災害の被災地支援活動をきっかけに設立した団体です。

発災当初から、被災家屋の片づけや、地域住民と協働で取り組んだクリーン作戦、竹林整備等様々な寄り添い支援を展開しており、その支援は倉敷に限らず県外の被災地に広がっています。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、様々な活動が制約されるなか、真備町の住民に向け、手作りマスクや除菌水を配布したり、建設型仮設団地での作業支援を行うなどの活動を通して安心と元気を届けてくれています。



学ぶ

オンライン研修会



▲研修会に参加された方が次は先生になって、学びが広がることも期待されます。

新型コロナウイルス感染症が拡大するなか、被災地での交流のあり方や復興に向けた取り組みにも「新しい生活様式」が求められている状況で、会えないなかでも情報を届け、顔を見ながらおしゃべりや交流・会議が行えるよう、スマートフォンやパソコンを使ったオンライン交流の勉強会を行おうという新しいチャレンジが始まりました。

はじめは「スマホなんかさわったこともないわあ」と自信がなかった高齢の参加者も、回を重ねるごとに色々な機能を使いこなせるようになっていきました。

オンライン環境に強い、大学生や企業等との関係も深まり、新しい「つながり様式」となりそうです。

- 開催日：令和2年11月～ 毎週月曜日(全7回)
- 会場：ぶどうの家BRANCH
- 参加者：毎回約5名
- 内容：「スマホ教室」
受講者にあわせてプログラムを作成
- 主催：ぶどうの家BRANCH「スマホ教室実行委員会」

BBC通信 <ぶどうの家 BRANCH コミュニティ通信>
第7号 (2020年11月22日)
この通信は、「ぶどうの家 BRANCH」に集う人、地域の人、愛する人、関わる人、など、広く人々を繋ぐものです。情報共有、意見報告、対話、学び、心れあいの場です。

“コロナ禍”でも 繋がりたい ……

「スマホ」が架け橋となる!!

ぶどうの家 BRANCH でスマホ教室が始まりました。11月9日から、毎週月曜日の午後、7時30分～9時で実施しています。初心者から「じっくり」と、少し経験のある方までレベルアップのコースが敷かれます。▼高齢者らしくして学ぶのが強みです。わからないけれどなかなか聞えられない……そんな悩みをもちました。新しい機能を試してみたい、ショッピングのゲームなどでスマホを使い始めていた。など、いろいろな方が、スタッフとほぼマンツーマンで一緒に学んでいます。▼コロナ禍

偲ぶ

坪田地区被災者追悼集会



坪田地区は豪雨災害により4名の命が失われた地区です。地区の全世帯が全壊という大きな被害と混乱のなかで、亡くなった方や家族に対してお悔やみの気持ちを伝えることができなかったことが、地域全体の気がかりでした。

ちょうど一周忌にあたる令和元年7月7日にプラザ坪田で追悼集会を実施したところ、故人の追悼ができたという安堵に加え、懐かしい住民が再び顔を合わせることに由来の地域のつながりを再確認したそうです。

三回忌にあたる令和2年も多くの住民や関係者が集い、坪田地区復興の意識を地域全体で高めることができました。

- 開催日：令和2年7月5日(日)
10:00～
- 会場：プラザ坪田
- 参加者：約60名
- 内容：被災者追悼集会
- 主催：坪田町内会



▲様々な祈りと誓いを込めて。



サロンへつながる種まき事業

啓発

『本郷地区住民の集いの場』

- 集まって楽しむところからサロン立ち上げまでの6回をサポート
- 場所：本郷公会堂
- 内容：茶話会・体操・折り紙・スクラップブックなど



『呉妹分館周辺の高齢者の集いの場』

- 集まって楽しむ習慣作り2回
- 場所：呉妹分館
- 内容：スクラップブック・おしゃべり



「集まって、こんな時間を過ごすのも悪うねえなあ」

地域の住民が少しずつ戻り、家屋の修繕が一息ついていくなかで、「今までの交流を再開したり、新たに茶話会などは開きたいが、音頭をとるのが大変で、なかなか実現できない」といった声もありました。

そんな思いを受け、交流の場づくりを希望する地域に出向き、再開に向けた支援ときっかけづくりをお手伝いする心強い活動が「サロンへつながる種まき事業」です。



真備町地域活性応援隊～竹あかり～

彩る



▲真備の子どもたちとキャンプを企画竹で作った水鉄砲に大はしゃぎ！

地域住民と協働しながら、被災家屋の片づけや、竹林の整備支援、竹灯籠の作成等を通して様々なイベントで感動や元気をプレゼントしているのが「真備町地域活性応援隊～竹あかり～」です。

家屋修繕のボランティアグループからスタートした「竹あかり」はメンバーが集まりやすい夜、主に活動をしています。

竹灯籠だけでなく、子どものために竹のおもちゃや、竹貨（竹のコイン）なども制作しています。

真備の夜を彩る竹灯籠のやさしい灯は、被災者に心を寄せるボランティアと前を向いて復興を目指す住民が織りなす色かもしれません。



▲新型コロナウイルス感染症の収束を願って、「あまびえ」の竹灯籠神輿も製作しました。



一般社団法人e p oおかやま笑顔プロジェクト

支える



「星を観る会」での炊き出しの様子。

おかやま笑顔プロジェクトは、岡山県だけでなく全国で発生する自然災害に対し、支援活動を効果的に実施するため平時・発災後を問わず様々な機関との連携をはかりながら防災の活動や被災者支援に取り組む支援団体です。
真備町でも建設型仮設団地での交流イベントの企画や、地域に向けた炊き出し支援、防災研修会の企画・実施など、様々な活動を展開しています。
11月に行われた、屋外での「星を観る会」でも温かい食事を届けてくれました。



▲少しひんやりした夜にあたたかい食事がとても喜ばれました。



▲岡山から県外の被災地へ支援と元気を届ける活動も継続しています。



真備・岡田の復興・再生を考える会

築く



▲いろいろな立場の方が参加をして、たくさんの復興に向けた熱意が集まる場となっています。



真備・岡田の復興・再生を考える会では、住民だけでなく国土交通省や、市議会議員も参加され、河川工事の進捗状況の確認や復興・防災の情報交換を行っています。災害の記憶を風化させないために、惨禍を後世に伝承する方法も検討しています。
この活動は回を重ねるごとに、まちづくり推進協議会ほか、商工会や専門職等、地区を超えた分野にも広がってきました。
これに伴い、令和3年1月から名称を「まび創成の会」と改め、引き続き安全な真備を求めて頑張っています。

- 開催日：毎月第3水曜日 17:30～
- 会場：真備公民館 岡田分館
- 参加者：約30名
- 内容：復興、防災の検討・情報共有
- 主催：真備・岡田の復興・再生を考える会（現「まび創成の会」）



真備追悼復興二年式

誓う



▲災害で犠牲となった51名の方に向け、同じ数だけ鎮魂の花火を、その後コロナ禍を皆で乗り越える決意を込めてさらに24発の花火を打ち上げました。

豪雨災害から2年を迎えるのを前に、真備町の復興支援を継続して行っている多数の団体が連携して、「真備追悼復興二年式」が開催されました。

「災害からどれだけ時間が経過しても忘れてはいけない出来事や失われた命をふりかえりつつ、みんなで未来を描きながら歩きたい」「追悼の想いと元氣なまちへの復興の誓い、両方の気持ちを込めて、花火とスカイランタンを空高くあげました。



▲参加者それぞれの想いを乗せて次々と夜空に上がるスカイランタン。オレンジ色の温かで優しい光に包まれました。

- 開催日：令和2年7月4日(土)
- 会場：高梁川河川敷
- 参加者：約200名
- 主催：NPO法人災害支援団Gorilla



まび男性介護者の会

結成

参加者の地域は限定せず、介護経験のある男性ならずどなたでも参加できます。町内外の専門職の方など、支援者の参加もあります。介護の悩みを一人で抱え込まないよう、隔月に集い、同じ経験を持つ仲間と話し合ったりフレッシュするとともに、介護の工夫や知識などの情報交換をしています。



「介護の苦労は体験した者でなければ理解してもらいにくい気がする」「男性が気軽に出席して介護の悩みを話したり、助言しあう場はなかなか無い」「被災で、生活環境が変わり介護の負担が増え、ストレスもたまる一方…」そんな男性介護者の情報交換、気分転換の場としてこの会は始まりました。



▲ドクターを招いた勉強会。オンライン開催しました。

- 開催日：奇数月第3土曜日 10:00～
- 会場：箭田分館・ぶどうの家BRANCHなど
- 参加者：男性介護者・OB・ボランティア



寄り添う

チーム山本



▲住宅の壁の取り壊しや床の張替えなど、「チーム山本」の支援活動の幅はとても広いのが特徴です。

防災士の資格を持つ山本さんは、日本赤十字社岡山県支部の防災ボランティアとして、真備町での被災地支援をスタートさせました。現在は、同じ志を持つ仲間とともに「チーム山本」を結成し、被災者から直接、声を聞きながら、住宅再建の手伝いや清掃、各種申請の援助など幅広い活動を展開しています。真備町だけにとどまらず、県内外の災害支援にも積極的に参加をされている心強いチームです。



▲山本さんのトレードマークは赤い帽子。いつも被災者の身近な存在として活躍をしています。

- メンバー：6名
- 活動回数：528回(真備437回、熊本県36回、岡山市27回、新見市13回、長野市11回、福島県いわき市4回)
※令和2年12月末現在
- 活動内容：
 - ・リフォーム前の家屋内外の清掃
 - ・草刈り
 - ・不要物品の廃棄
 - ・その他、困りごと対応



ほっと笑待会

招く



竹&ふれあいフェスタ (ふれあい夏祭)2020

集う



みなし仮設住宅で生活を送る人の交流の場として玉島長尾で開催されている「ほっと笑待会」。昨年度までは多くの支援機関と参加者による食事会形式で企画していましたが、今年度は新型コロナウイルスの対策をしながら、被災者の方も手芸等の得意な力を発揮して活躍してもらえらるような、暮らしに密着したサロンを毎月1回開催しています。



▲箭田小学校有志によるよさこいソーラン踊り。

新型コロナウイルス感染症拡大のなか、多くの人が集まる行事が次々と中止になってはいましたが、毎年恒例の夏祭りは感染予防や内容を工夫しながら無事開催することができました。災害とコロナ禍のなかで、地域の交流を求めていた人たちにとっては心安らぐひと時となったようです。

- 開催日：令和2年9月～毎月第2or第3月曜日 9:30～11:30
- 会場：玉島公民館 長尾分館
- 参加者：のべ77名
- 内容：手芸・おしゃべり・情報提供等
- 主催：ほっと笑待会

- 開催日：令和2年8月22日(土) 15:30～18:30
- 会場：吉備真備駅前広場(ロータリー)・真備支所
- 内容：ステージイベント・福引等
- 主催：夏祭り実行委員会